

# NEWS LETTER

Vol.2  
2021.10月

## 主要指標 (2021年8月速報値)

※請負は請負・委任の合計

【会員数(人)】	前年同月比較	【新入会員数(人)】	前年同月比較	【退会会員数(人)】	前年同月比較
合計	686,173 (▲11,060)	合計	43,449 (+4,232)	合計	55,695 (+ 57)
男性	454,278 (▲ 8,786)	男性	26,889 (+2,211)	男性	34,790 (+270)
女性	231,895 (▲ 2,274)	女性	16,560 (+2,021)	女性	20,905 (▲213)
【受注件数(件)】	前年同月比較	【就業延人員(人日)】	前年同月比較	【契約金額(千円)】	前年同月比較
合計	1,589,534 (+19,150)	合計	27,127,801 (+711,577)	合計	130,213,186 (+3,665,290)
請負	1,558,887 (+19,568)	請負	23,644,215 (+583,096)	請負	111,684,050 (+2,632,615)
派遣	30,647 (▲ 418)	派遣	3,483,586 (+128,481)	派遣	18,529,137 (+1,032,675)

## トピックス

### 我が国の高齢化率は29.1%、高齢者の就業率は25.1%

9月20日に公表された「統計からみた我が国の高齢者」(総務省統計局統計トピックスNo.129)によれば、我が国の総人口(2021年9月15日現在推計)は1億2,522万人と前年に比べ51万人減少している一方、65歳以上の高齢者人口は3,640万人(男性1,583万人、女性2,057万人)と前年より22万人増加して過去最多となりました。

総人口に占める65歳以上の高齢者の割合(高齢化率)は29.1%となりましたが、第2次ベビーブーム期(1971~1974年)に生まれた世代が65歳以上となる2040年には35.3%と約2.8人に1人、2065年には38.4%に達して、国民の約2.6人に1人が65歳以上の者となると見込まれています。

一方、2020年の高齢者の就業者は17年連続で増加し、就業率(65歳以上人口に占める就業者の割合)は25.1%(男性34.2%、女性18.0%)と、9年連続で前年に比べ上昇しています。

特に、65歳~69歳の就業率は49.6%(男性60.0%、女性39.9%)と、2人に1人が就業しています。また、70歳以上の就業率も、17.7%(男性25.4%、女性12.2%)となっています。

### センター会員の平均年齢は73.8歳

シルバー人材センターの会員の平均年齢は73.8歳(男性74.1歳、女性73.4歳)、新入会員の平均年齢は70.0歳(男性70.1歳、女性69.9歳)で、いずれもこの10年で約3.5歳高くなっています。

### センター会員の最高年齢は104歳

2021年3月末現在の会員の最高年齢は男性104歳、女性101歳で、100歳以上の会員がいるセンターは9センターです。

また、2020年度の新入会員の最高年齢は男性94歳、女性93歳で、90歳以上の新入会員がいるセンターは17センターです。

### 会員の年齢階層

(2020年度事業統計)



特集

地方公共団体による高齢者のごみ出し支援

65歳以上に占める一人暮らしは増加

「2020人口動態統計(確定数)」(厚生労働省)によれば、出生数は前年より2万4,404人減少して過去最少となり、高齢化率は今後も上昇を続ける見込みですが、「日本の世帯数の将来推計(全国推計)-2018(平成30)年推計-」(国立社会保障・人口問題研究所)によれば、65歳以上に占める一人暮らしの割合は、男性は2020年の15.5%から2040年の20.8%へ、女性は22.4%から24.5%へ上昇すると見込まれています。

高齢化社会に対応したごみ出し支援制度

このような高齢化社会や核家族の進展等に伴い、高齢者のみの世帯が増加するにつれて、家庭からの日々のごみ出しに課題を抱える事例も増加していることから、環境省では、地方公共団体のごみ出し支援制度の実態調査等を行い、今年3月、地方公共団体のごみ出し支援制度の導入・見直しに向けた「導入の手引き」及び「事例集」を作成・公表しました。

「手引き」には、連携先の一つとしてシルバー人材センターが挙げられ、「事例集」には牛久市、武蔵野市、新居浜市、東根市の各シルバー人材センターの事例も紹介されています。

ごみ出し支援は同世代を支える大事な仕事

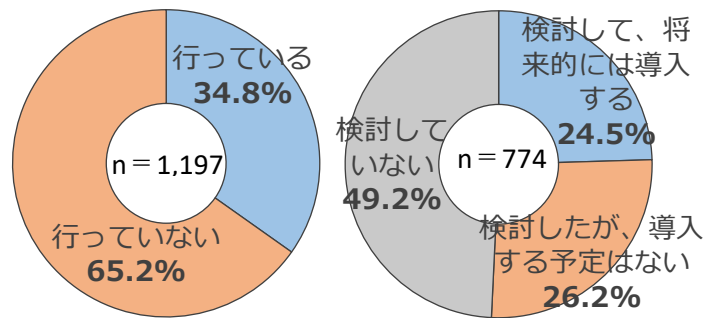
高齢者のごみ出し支援制度を導入している地方公共団体の割合は、2020年度では34.8%であり、今後も導入する地方公共団体は増えると予想されています。

また、定期的な高齢者のごみ出し支援を通じた、声かけ等による安否確認や、介護サービス利用の入り口としての活用も非常に有用な支援です。

多くのシルバー人材センターでは、福祉・家事援助サービスや介護予防・日常生活支援事業などでごみ出し支援を実施していますが、ごみ出し支援は、サポートを必要とする同世代を支える大事な仕事の一つです。

皆さんのセンターでも積極的に検討されてはいかがでしょうか。

地方公共団体の高齢者のごみ出し支援制度の導入状況  
(環境省の実態調査から)



<2021年1月時点の実施状況> <導入検討状況>



全シ協からのお知らせ

- 11月6日、7日「日本応用老年学会大会」がオンラインで開催されます。11月7日の公開シンポジウム「生涯現役社会の課題と展望」では、清家 篤先生を座長として、秋山弘子先生等が参加されます。(無料<事前登録制>)
- 令和3年度「エイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例」(内閣府)は、残念ながら該当がありませんでしたが、来年度も推薦をよろしくお願ひいたします。